

10.九州(地域別調査機関:(財)九州経済調査協会)

( -:回答が存在しない、 :主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	百貨店(販売促進担当)	単価の動き	・天候不順により来客数が減少しており、売上は上がっていないが、客単価が伸びており、消費性向は回復している。	
		百貨店(売場担当)	販売量の動き	・雨の影響で売上の大幅な下落が見られたが、衣料品の売上が急激に伸びており、総じて悪くはない。来客数の動きが若干鈍い。	
		スーパー(店長)	販売量の動き	・今年は集中豪雨があったが、前年比102%くらいで推移している。特に野菜等の高騰により青果が大変好調である。また衣料品も良くなってきており、前年比110%くらいで推移している。	
		スーパー(店長)	お客様の様子	・食品は、たばこの値上げに伴う特需もあり前年比107%と大きく伸びた。しかし青果物が苦戦しており、前年比1~2%減少している。生活必需品は特定のお買い得日に集中する節約傾向が続いているが、話題商品、新商品の動きは非常に良い。	
		スーパー(総務担当)	販売量の動き	・来客数はほぼ横ばいであるが、客単価は若干の上昇傾向が見受けられる。	
		コンビニ(販売促進担当)	販売量の動き	・今月は台風がなく好調であり、量販店は前年比107.2%、コンビニエンスストアは前年比96.6%、ローカルスーパーが前年比105.8%となっている。また夏休みに入り、パン、弁当が良く売れている。	
		衣料品専門店(店員)	お客様の様子	・今月はセール時期なので必要なものがあれば買うという状況であるが、セール狙いの客が増えており、客層の裾野は広がっている。	
		衣料品専門店(総務担当)	単価の動き	・ヤング婦人服は前年を上回っているが、ミセス婦人服は前年を下回っている。宝石や着物は前年を大幅に上回り、特に展示会、催事は前年比30%増である。	
		家電量販店(総務担当)	販売量の動き	・エアコン、冷蔵庫、洗濯機等の高機能・高価格商品がよく売れている。多少高くても良い物を買うという傾向が強くなりつつある。	
		家電量販店(企画担当)	来客数の動き	・テレビの買替え需要が出ており、薄型テレビが予想以上に売れているのに加え、エアコンが猛暑により良く動いている。	
		乗用車販売店(管理担当)	来客数の動き	・イベント時に来場者が多かった。新車への買換えも前年並みとなっている。	
		高級レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・夏場は例年であれば来客数は落ちるのだが、今年は前年を上回っている。	
		観光型ホテル(経営者)	来客数の動き	・梅雨が明け一般的に暑い日が続いており、避暑地の来客数が増加している。	
		都市型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・一般宴会の需要がやや多くなっており、宿泊動向も伸びている。	
		通信会社(業務担当)	販売量の動き	・7月はボーナス商戦に加え、新聞折込チラシや街頭チラシ配布などの効果もあり、自店のみでなく全体的ににぎわいを取り戻している。キャンペーン特価目玉商品を中心に販売台数が増加した。	
		テーマパーク(職員)	来客数の動き	・夏休みのサマーステイプランに伴い、宿泊施設、飲食施設、アミューズメント施設がにぎわい始めている。予約状況もほぼ昨年並みである。	
		ゴルフ場(従業員)	単価の動き	・ディスカウントしていたプレー料金が、最近安定してきており、前年比4%程度単価が上がっている。	
	変わらない		一般小売店[鮮魚](店員)	来客数の動き	・うなぎの日の動きが予想以上に悪かった。消費者は低価格の商品を求める傾向にある。
			百貨店(営業担当)	お客様の様子	・大雨の影響で、クリアランス、中元商戦での来客数が大幅に低下した。しかし購買目的での来店客が多く、客単価は前年を上回り、中元ギフトは前年実績を確保した。正価販売品も堅調であった。
		スーパー(経営者)	単価の動き	・長雨等により、来客数が減少したほか、青果物の単価高騰により販売量の動きが鈍い。	
		スーパー(店長)	競争相手の様子	・競合店が開店し、一時来客数、客単価が前年比80%台になったが、最近回復基調に転じた。	
		スーパー(店長)	お客様の様子	・今月の前半は衣料品を中心に売上が上向きであったが、後半は長雨等の影響により低調に推移した。	

スーパー（総務担当）	お客様の様子	・衣料品関係は長雨の影響を受け、かなり前年実績を下回っているが、食品関係は前年を上回って推移した。
スーパー（企画担当）	販売量の動き	・今月は中盤までは、気温も高かったためアイスクリームや清涼飲料、ビール等の涼味商材の動きが良かったが、中盤以降の長雨と気温の低下によって、客足が鈍り、涼味商材の動きも鈍化した。加えて7月に値上がりしたたばこの買い控えや前年ブームとなった寒天やところてんの反動減もあり、販売数量の減少が目立ち苦戦を強いられている。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・春先の競合店出店の影響が、依然続いている。また、長雨の影響により衣料品を始め、夏物の商品の動きが悪い。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・今月は祭り等イベントの多い月であり、購買意欲が出ると期待したが、依然必要なもの以外の購入はなく、逆に昨年より販売量は減少した。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・7月から始まったセールは、1週間程で熱が冷めた。まとめ買いで更に割引をするセールで客単価が上がり、昨年の売上を超えることができた。長雨による気温低下でカーディガンやボレロなどの羽織物が動いたので、天候不順の影響はそれほどなかった。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・梅雨の中休みでエアコンの販売量が増えた。しかし、その後大雨が続いたことでエアコンの販売量も落ち着き、デジタル家電も期待したほど動かなかった。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・契約件数が目標には到達せず、苦戦している。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・来客数、販売量ともに横ばいである。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	お客様の様子	・価格の値上げが予定されており、一時的に駆け込み需要が発生している。梅雨明けが例年より遅かったため、前半の売上は前年を下回っていたが、駆け込み需要により総じて販売量は変わらない。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数、客単価は横ばいである。
一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・ビヤパーティプランを実行しており、例年よりも若干金額設定が高いプランで提供したが、反応は芳しくなかった。
都市型ホテル（副支配人）	来客数の動き	・客のニーズは感じるが、客単価はまだ厳しい状況である。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・梅雨明けが遅いせいか、国内旅行の動きが鈍かった。海外旅行は早期割引特典の充実で6月時点の予約が多かった。
タクシー運転手	お客様の様子	・昼の人の動きは悪いが、夜は居酒屋かビヤホールに人が集まっており、例年とあまり変わらない。
タクシー運転手	来客数の動き	・暑いせいか昼間の客はかなり動いているが、夜の繁華街の客の動きが悪く、売上は先月より少し上がっている。
タクシー運転手	お客様の様子	・客はわりと動くようになっているが、客数のわりには売上が伸びないため依然変わらない。
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・回復とまではいかないが、販売量が下げ止まっている。
通信会社（総務担当）	販売量の動き	・キャンペーンをしているが、売上は前年より落ちている。
観光名所（職員）	来客数の動き	・ゴルフ場については前年比60%を少し超えた程度である。天候の影響に加え、九州への入込客数が減っている。
美容室（店長）	お客様の様子	・パーマをかける、髪を染めるなどの周期が長くなっている。
設計事務所（代表取締役）	お客様の様子	・建設業界は、公共事業の発注減により受注量が減少している。さらに、入札時の価格競争で低価格で落札される傾向があり、売上が減少している。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・長雨のため、住宅展示場への来場者数が激減している。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き ・中心商店街のアーケード街は、ほとんど人通りがなく、土日は特に厳しい。

	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月から駐車違反の民間委託が始まり、周辺に駐車場が少ない商店街には客足が遠のいている。また、雨の日が多く来客数がかなり減っており、中元商戦も年々減っている。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・梅雨末期の雨がひどく、来街者数がかなり少なかった。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・雨の日が多かったせいか来客数は大幅に減少した。食料関係、衣料関係もなかなか伸びず早めにセールが始まった。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順のため来客数が減少した。	
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・梅雨が明け、真夏日が続くことで緑茶など温かい飲料を求める客が例年より減少している。	
	百貨店（売場主任）	それ以外	・セールは、スタートが非常に好調であったが、中旬以降は天候の影響もあり売上が減少した。天候に加えて、売場で客のニーズが高かった羽織のブラウスやカットソーの品ぞろえが充分ではなかったため、売上が増加しなかった。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・近隣の大型商業施設が開業して1年が経ったが、当店では前年比2～3割減という状況である。	
	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・天候の影響もあるが、来客数が大幅に減少している。また、中元商品の減少傾向も続いている。	
	百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・7月の前半は、クリアランスの強化により好調に推移したものの、後半の長雨で来客数、売上とも低迷した。ギフト商戦については、固定客の購買力が高く、売上は前年を維持している。	
	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・夏物の処分期に入り、正価で買い控えをしていた客の増加を見込んでいたが、売上は低迷した。天候だけのせいではなく、必要なものをより安くという傾向が目立つ。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・BSEに代表されるように生鮮食品が非常に厳しい状況である。水産物は原価が昨年に比べて約2倍するものもたくさん出てきており、非常に厳しい状況である。	
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・梅雨明けが例年より遅れたことにより、夏物商材の低単価なアイス、飲料、ビール、発泡酒等の売上が激減し、前年クリアは厳しい状況である。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・天候のせいもあるが、来客数が減少している。	
	高級レストラン（経営者）	競争相手の様子	・周辺に料亭をかねた割烹旅館が何件かあるが、最近では来客数が激減している。例年は夏休みに入ると週末は泊まりがけの食事会等がよくあったが、週末でも暇なようである。	
	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ディナータイムの来客数が大幅に減少している。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・長雨の影響で客の動きが非常に悪い。買物にしても病院にしても先延ばしにしている感がある。	
	競輪場（職員）	販売量の動き	・入場者数の減少傾向が続いている。また、年に1度の大きなレースでも発売額が減少している。	
悪くなっている	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・お祝い用ギフトやお見舞い用アレンジメントがメインであり、お盆の消費も多少は見込めるが、減少傾向は続いている。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・長梅雨の影響が深刻で、商店街では抽選会を実施し夏商戦を盛り上げようとしたが、来街者数は伸びず、例年余ることのなかった抽選券が初めて余った。	
	高級レストラン（専務）	単価の動き	・鹿児島は豪雨による災害が多く、来客数が減少した。	
企業動向関連	良く なっている	-	-	
	やや良く なっている	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量の増加傾向が続いており、前年比115%であった。後半の物件情報も多く、マンション及びホテル等の新規物件がおう盛である。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・電子部品関連、特に半導体関連の金型、装置、精密機械加工等において非常に多忙な状況が続いており、まだまだ動きとしては上昇傾向にある。

	新聞社（広告）	取引先の様子	・事業イベントや新聞広告特集への協賛を前向きに検討する企業が増えた。今まで削減傾向にあった広告予算も以前より増えている。	
変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・鶏肉在庫が10万トンを超す状況の中、売行きは悪い。特に加工メーカーへの納品は量、価格とも厳しい状況にある。ただし居酒屋関連は順調に伸びている。	
	農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・5年ぶりの安値で非常に厳しい状況である。	
	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・少しずつ周りの工場の受注が増えてきた。	
	窯業・土石製品製造業（取締役）	取引先の様子	・大手の取引先は景気が良いが、中小企業も好調に推移している。消費が一部で低迷しており、売上が若干伸び悩んでいる業種もあるが、良い部分がそれを相殺し、全体としては変わらない。	
	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の引き合い状況として見積物件が絶えない状況で、高止まり傾向である。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・仕事はそれなりにあるが、原材料価格の上昇から収益が非常に圧迫されているほか、人員も不足している。競争が激化しており、悪い循環に入りつつある。	
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注は順調に推移している。既に前年実績を上回っている。	
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・目立って荷動きが良かったわけでもなく、低い水準で横ばい状態が続いている。	
	金融業（営業職 渉外係）	それ以外	・ゼロ金利解除により銀行の預金金利、住宅ローンや事業資金の貸出金利が上昇傾向にある。一方、原油高騰によるガソリン価格の上昇や、長雨による野菜の高騰で家計負担が大きくなってきている。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の運送業の売上が上がっているが、ガソリン代の値上げで赤字もしくは利益が薄くなっている。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・九州地方は長雨で天候的に見ても非常に厳しい状況であった。関係先の様子を見ても全体的に昨年の売上実績を割っている。	
経営コンサルタント	それ以外	・展示会への参加者が少しずつ減っている。		
やや悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在の受注状況は量販店、百貨店の動きが悪い。例年の受注と外食産業は好調に推移している。一般向けの商品は夏場ということもあり悪い。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注が減少している。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・鋼鉄や石油価格の高騰により厳しい状況が続いている。	
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・全体的に荷動きが悪い。特に衣料品や電化製品の動きが悪い。	
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・酒類業の販売競争が激化しており、低価格だけでは競争力が維持できず、売上の確保が難しくなっている。	
	その他サービス業 [物品リース]（役員）	取引先の様子	・景気が緩やかに回復しつつある中、売上不振から取引先が倒産し、大口の不良債権が発生して大きな打撃を受けた。大型倒産の発生は2年ぶりのことである。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連	良く なっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・停滞していた人材募集がここに来て上向き傾向にある。各企業の決算、売上上方修正を受け人材確保に対する費用を強気に出している。
		新聞社 [求人広告]（担当者）	採用者数の動き	・大学新卒者への求人が増えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・高校生を対象にした求人募集が始まったが、今年は提出の量が昨年に比べて1.5倍から2倍のところもあり、昨年よりも良い。
		民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・金融機関からの需要が急増している。加えて営業職・販売系の需要も増大し、一部では供給不足をきたしている。企業の採用意欲がおう盛である。
変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・派遣の受注件数はここ2、3か月安定しており、大きな増加もなければ減少もない。	

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前月比で新規求職、新規求人とも6.3%の減少であり、月間有効求人倍率は0.74倍と前月と同水準である。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・正社員募集が若干増えているが、正社員以外の募集がまだまだ多い。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は前月比16.9%増、前年比5.4%増と、増加傾向にある。ただし、今月は卸小売業のパート等の新規求人数が減少した。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	雇用形態の様子	・雇用件数はやや増加傾向にあるが、正規職員の比率が減少しつつある。雇用の分母は増加しているかもしれないが安定性や定着率は良好とは言い難い。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・例年、この時期になるとお中元や夏バーゲンなどに向けた短期の求人が活発になるが、今年はそれほどもなかった。特にアウトソーシングの求人が例年より少ない。人手不足の慢性化も要因の一つであるが、全体的な印象としては景気に力を感じられない。
	職業安定所（職員）	それ以外	・前年に比べ、事業主都合による離職者が増加している。建設業を中心に事業所閉鎖や事業規模縮小等が増加している。加えて、新規学卒と一部製造業を除き新規採用を見合わせている事業所も見受けられるため、雇用情勢については景気が上向いているとはいえない。
悪くなっている	-	-	-